

# 校長室より

令和4年11月18日(金)

「返事」



自分の名前を呼ばれても『はい』という返事ができない人が増えている…。これは長畝小学校でも例外ではありません。先日の表彰伝達の時に、名前を呼ばれた子どもたちの返事があまりにも小さく、とてもさびしい気持ちになりました。そこで、今回は返事について考えます。

『はい』の語源は『拝』という字で、この『拝』には“ていねいに敬礼する”“ありがたく受ける”という意味があります。つまり、『はい』は相手を尊敬し、感謝する気持ちの表れなのです。確かに、誰かに声をかけたとき、気持ちよく『はい』という返事をされると、うれしい気持ちになりますよね。

このことは、日本の哲学者・教育者の森 信三(もり のぶぞう;愛知県出身)が提唱した「しつけ3原則」にも記されています。「しつけ3原則」とは…

- 1 朝、あいさつをする
- 2 呼ばれたら、『はい』とはっきり返事をする
- 3 はきものを脱いだらそろえ、席を立ったらイスを入れる

森氏は、この3つが「身に付けるべき根本的習慣」であり、「これらができるようになれば、他のことはできるようになる」とまでおっしゃっています。しつけ3原則の一つ目に『はい』という返事ができることを挙げてますね。人間は、自分がいつも発している言葉に影響を受けます。「私ってダメだなあ…」などといつも言っていると、ますます自信がなくなっていきますし、「ありがたい」という言葉を口癖にしていると、感謝する気持ちが高まって、本当にいろいろなことがありがたく思えてきます。そして、『はい』という返事が習慣になると、素直な心が育つのです。

多くの成功者たちが、成功の秘訣の一つに「素直さ」を挙げています。この素直さは社会に出てもとても重要な資質になります。その素直さを養う方法の一つが、気持ちよく『はい』という返事をする事なのです。